

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年11月16日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇大豆(フユヅ)◇

収穫は11月5日頃から開始され、最盛期は11月15～25日の見込み(平年よりやや遅い)です。播種の遅れや9月上旬の台風により莢数が少なく、収量は低い見込みです。播種の遅れたほ場では、最下着莢位置が低く、刈取りロスの発生が懸念されます。青立ち株の発生は少ないです。

本暗きよの栓は、確実に開けましょう。青立株や大型雑草は、汚粒発生や収穫作業の支障となるため、早めに抜き取りを行いましょ。最下着莢位置に留意しながら、収穫時に土をかき込まないよう刈取り高さを調整して収穫しましょ。倒伏しているほ場は、リフターキットを装着し、刈取りロス軽減に努めましょ。

### ◇麦類◇

現在、排水対策として、周囲構や弾丸暗きよ等の施工、土づくりとして土壌の酸度矯正等を実施中です。播種は11月10日頃から始まり、最盛期は11月下旬～12月上旬になる見込みです。また、大豆後作における麦類の播種は12月上旬が中心になる見込みです。

排水対策、土づくり、雑草対策を実施してから播種を行いましょ。また、早めに耕起(荒起し)せず、ほ場の土壌水分や天候を見極めて、適期播種を行いましょ。二条大麦の早播きは、収量、品質が低下しやすいため実施しましょ。

### ◇イチゴ◇

出荷は11月6日から開始しました。定植後の乾燥や朝晩の冷え込みで、平年より7～10日遅いです。出荷量は11月下旬以降から増加する見込みです。出荷開始時の果実は、果形も比較的よいです。2番花房の分化は平年よりやや遅く、1～2番果房の間の葉数は4～6枚程度とやや少ないです。

適正な草勢を維持するため、状況に応じた温度や電照管理、摘果などを徹底しましょ。ハウス内の高温や乾燥に注意し、かん水管理を徹底しましょ。ハダニ類、アブラムシ類等の害虫対策を徹底しましょ。炭疽病が多発したほ場や親株が不足する場合は、秋ランナーを活用して親株を確保しましょ。

### ◇施設キュウリ◇

促成作型は10月12日を中心に定植。定植後の活着は良好でしたが、低温で推移したことにより、節間が短く、生育はやや遅れ気味です。9月10日定植が11月10日に出荷開始となり、11月中旬から本格的に出荷開始しました。定植直後からコナジラミ類の発生が多く、一部で退緑黄化病が発生しています。アザミウマ類の発生はありません。べと病は、一部の品種で発生が散見されます。

気温の低下に伴い、加温準備を行いましょ。ハウスの密閉度を高め、併せて被覆の多層化によりハウスの保温性を向上させましょ。草勢を見ながら摘心、摘葉を行いましょ。病害虫の防除対策を徹底しましょ。

### ◇カキ◇

「秋王」の出荷は、10月中旬から開始。現在は出荷後半です。梅雨の長期化により生理落果が多く、出荷量は前年並みの見込みです。「富有」の出荷は、11月上旬から開始。着果量は平年より少なく、梅雨の長期化により果実肥大も平年より悪いです。台風による傷果やヘタスキによる軟熟果の発生もあることから、出荷量は前年を下回る見込みです。

適期収穫に努めるとともに、軟熟果の混入防止のため、選果を徹底しましょ。炭疽病の被害果の除去、園外への持ち出しを徹底しましょ。

#### ◇キウイフルーツ◇

「レインボーレッド」は、出荷終了しました。かいよう病等の発生や高温乾燥による樹勢低下の影響で出荷量が減少しました。「甘うい」は、10月16日で集荷終了。10月26日～11月26日で選果予定です。現在の果実品質は、糖度は前年よりやや高く、階級はやや大きいです。集荷量は210t（前年比98）です。「ヘイワード」は、11月1半旬から集荷開始。果実肥大はやや小玉でばらつきがあり、春季の霜害や花腐れ細菌病の発生、長雨、高温乾燥等の天候不順の影響で集荷量は前年より少ない見込みです。また、一部の園地では台風等による果実への擦れや早期落葉がみられたため、貯蔵性の低下や傷果の発生が懸念されます。

適期収穫に努めるとともに、傷果、病虫害被害果の混入防止のため、貯蔵病害対策や家庭選果を徹底しましょう。果実が濡れると、貯蔵性の低下や腐敗しやすくなるため、雨天日には収穫しないようにしましょう。収穫果実は、温度が上がらないように日陰に置きましょう。収穫後の落葉期にかいよう病の対策を徹底しましょう。

#### ◇トルコギキョウ◇

秋出荷作型（10～12月）が出荷中です。9～10月は日照時間に恵まれ、プラスチック等の生育障害の発生は少ないです。出荷量は、主力産地が11月出荷に切り替えたため、10月出荷は減少しました。販売単価は、高冷地の出荷が早く終了したことから、例年以上に高いです。

11月以降は、最低温度12℃を確保し、開花を促進させましょう。日中は換気に努め、茎葉の締まった切り花づくりに努めましょう。斑点病、灰色かび病の対策を徹底しましょう。

#### ◇シクラメン◇

山上げ栽培は10月下旬から、平地栽培は11月中旬から出荷開始です。7月の低温傾向で生育が早まった後に8月が高温に転じたため、生育停滞が懸念されましたが、夜冷栽培の普及により生育は概ね順調です。炭疽病の発生も少なく、現在の作柄は問題ありません。今後、年末の需要期に向けて出荷量は増加し、12月上旬がピークとなり、12月下旬まで続く予定です。

急な低温に備え加温準備を行い、出荷直前の蒸し込みは避けましょう。ホコリダニ、アザミウマ類の加害、灰色かび病の発生に注意し、加温開始期までに対策を徹底しましょう。

#### ◇畜産◇

10月の豚枝肉価格は、出荷頭数が増加傾向であったものの、なべ物需要の増加により、前年及び過去5年平均を上回る水準となりました。

鶏卵価格は、全国の餌付け羽数が9か月連続で前年を上回り、供給過多の状況のため、前年及び過去5年平均を大幅に下回る水準となりました。

寒冷期を迎え、鳥インフルエンザや豚熱発生予防のため、農場の衛生管理を徹底すしましょう。幼畜の寒冷対策を徹底しましょう。